

新教育ビジョン策定に向けた審議会委員等による意見一覧

(2) 新たな教育ビジョンに盛り込むべき視点 (キーワード) (意見区分B)

提出意見

【審議会委員からの意見】

●第1回の議論の流れから、現在の教育ビジョンで明記している「目指すべき人間像」を今回も明記していくか議論は必要と思われますが、教育委員会の指針であるビジョンとしては、「育みたい力」については少なくとも記載が必要と考えます。

例えば、「先行き不透明な時代」に「あらゆる環境の変化を乗り越え、自ら豊かな人生を切り拓いていくことのできる力」、「持続可能な社会の担い手、創り手となる力」、「自ら学び続けることができる力」、「あらゆる他者の価値を認め、尊重できる力」、「主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する力」、など（現在の教育ビジョンでも既にほぼカバーされているようですが）。

●本来、学ぶということは、とても幸せで楽しいものだという認識が、子ども達の自己肯定感にもプラスのアプローチとして繋がるのではないか。子ども達が、「将来、何の役にも立たない勉強」と悲観せず、「未来をイメージし、楽しく学ぶ」と感じられるような視点で教育ビジョンを創り上げていけると良い。前回の会議で話があった、「子どもをまん中にした地域社会」という言葉も、とても良い。

●共生社会の実現に向けた、学校のあり方、地域社会づくり

- ・ 様々な場面で「選択肢」のある教育環境づくり（合理的配慮の提供があたりまえになることも含めて）
- ・ キャリア発達が子どもに自覚できる、あるいは大人からの価値づけがあり、コンピテンシーを育てる視点をもつ教育環境（キャリア発達の保障）

●子どもをファシリテーターに育てる

- ・ 正解のない不透明な時代・場面の中で、合意形成が図れる人間力を育てる。
- ・ 自分たちの問題を自分たちで解決する力を育てる。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を大人と子どもが同時に体験できる環境づくり

●多様な学習形態を認めつつ、学校がもつプラスの機能を発展させる学校づくり

不登校特例校（校内フリースクールなども含む）

●多様な人たちの意見を聴取する。

例えば、障害のある子どもたち、当事者、保護者の声。難しいかもしれないが「不登校」あるいは、フリースクールに行っている子どもたちの声も拾ってみてはどうか。あるいは保護者の声でもよいと思う。学校教育に対する期待について幅広い声を反映させるビジョンができることを望む。

●「Society5.0（超スマート社会）」・「人生100年時代」・「予測困難な時代」を迎える～。

●「個別最適な学び」・「個に応じた指導」・「指導の個別化、学習の個性化」・「協働的な学び」の実現、充実

●「人格形成の基礎を培う」「就学前教育・幼児教育の充実」

●「9年間を一貫した」「知・徳・体のバランスの取れた」「質の高い義務教育・学校づくり」の実現

●「地域に開かれた学校」あるいは「地域と共にある学校」

●「生涯にわたる学びあいの実現」あるいは「生涯学び、活躍できる地域の実現」

●「教育システムの多様化」（以下、説明）

現状普通科かからの受験、という道がメインなので、多様性に対応した教育システムの構築。いろんなタイプの子供たちがいると思うので、どのタイプの子供たちも将来の選択肢がしっかりと出来る仕組みを整えて行くように、専門性や知見がある大人が関わり、多様な職業観や選択肢を提示できるシステムを構築する。大学進学、就職という画一的なルートのみならず、手に職をつけて専門性を高める道や、独立や起業といったスタ

提 出 意 見

ートアップの力をつけるような教育も取り入れ、多様な選択肢を提供していければと思います。

●「人間力」、「ふるさと杉並」、「学び続ける力」

●「サーモン計画」（卒業生が戻り、後輩や地域のために協力する。）、「第4次産業革命への適応」（ICTやIoTを理解し、活用できる教育）

●「学び続ける力」、「変化を楽しむ力」、「社会への関心興味」、「自己肯定感」、「心理的安全性」

●「就学前から保幼小中の一貫教育の推進」、「学校再編（統廃合）」、「学社融合（学校教育と社会教育のハード面・ソフト面での融合）」、「地域コミュニティの担い手」

●「フル・インクルーシブ教育（すべての時間をすべての子どもたちが同じ場（通常の学級）で過ごすことを原則とする教育）」、「市民性の教育」、「主権者教育」、「学校を心の安全基地に」、「すべての教職員がひとりひとりの子どもを見守る教育」、「市民に開かれた学校」、「学力偏重主義の是正」など。

<参考>関係団体等から出された意見

【区立子供園園長会】

- 主体的な遊び・・・自分で見て、自分で考え、自分で判断して行動する。
- 自然体験
- 地域や保護者との協働
- 個別最適な学びと協働的な学びの往還

【区立中学校校長】

- 持続可能な視点での学校運営協議会の運営
- 「個別最適化な学びと協働的な学び」「オンライン・遠隔授業と対面授業」「児童・生徒一人1台パソコン（ICT活用力）」「AIを使いこなす人」「学び続ける意欲」
- 「就学前教育から中学校までの学びの連続性の構築」「次世代（未来）を担う子供の育成」「学校教育環境の一層の充実」「学校教育の抱える社会的な課題の克服」「学校の教育力の向上」「子供の育ちを支える共同体の構築」
- 「(情意面で、)意欲・探究心」「コミュニケーション・連携・協力」「健康・安全」

提 出 意 見

【調整会議委員】

●【意見区分Cとしても提出】「共生社会の実現」「障害がある人もない人も、互いに尊重し合いながら暮らしていける共生社会を目指す。」

●【意見区分Cとしても提出】「インクルーシブ教育」「特別支援教育の推進」

具体的には「共生社会の形成に向けては、インクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築には、特別支援教育を着実に進めていくことが不可欠。」と考えています。

●これからの時代（10年後）のキーワードは、コロナ禍や社会的分断（例：米国）など「不確実性」、また「成熟社会」「人口減少社会」

●人生100年時代にあってこれからの教育とは、「生きる力」の付与から「生き抜いていける力」の付与に

●誰一人取り残さない（SDGs）、「教育のまち・すぎなみ」

●学校は子どもが幸せになるための準備の場

●「持続可能な施設整備」、「これからの学校施設に真に必要なものとは」

●【意見区分Cとしても提出】

(1) 教育内容（特に重点としたい事項）

①人にやさしさ、自分に強さ

・自律と貢献 ・社会の中で共に生きる知恵

②多様性と対話

・自ら多様な人と協働して課題を解決する ・チームで学び合う

・しんどい学校、息ぐるしい学校からの脱却（同調圧力）

③生きて働く力の育成

・どれだけ知識、情報を溜め込んだより、それを駆使して何ができるか

④持続可能な社会の作り手

・SDGsの学習

⑤アート教育

・豊かな感性、デザイン思考

(2) 教育体制（子どもを支える大人の役割）

①夢の共有

・問題、課題の共有だけでなく未来図の共有（学校・保護者・地域）

・未来図の共創（そのために各校でcs中心に井戸端会議） ・未来図を創ってから共創

②学校の自律と責任

・各校の実態に合わせたオーダーメイドの教育活動 ・できれば学校・保護者・地域で共創

③働き方改革

・一人一人が頑張る集合体から、協働による組織体へ（チーム学校） ・区費教員での教科担任制

・毎年、協働で行う「棚卸し」・ただし、未来を担う子どもを育てる責任と誇りをもち、学び続ける教員

④教育のデジタル化

・データとAI

●フレーズという訳ではありませんが、これまで通り、学校は、「地域の中の公共空間」という考えを継承しつつ、児童・生徒への教育を支える観点の一つとして、学校施設整備の視点も入れられればと考える。併せて、築50年を超える学校が増加している中、計画的に学校改築を進めるだけでなく、80年使用することを念頭に進めている、学校施設の長寿命化についても、ビジョンの中で触れられれば、現在策定している「杉並区学校施設整備計画（第2次改築計画）」との整合性を取ることが可能となると考える。